

令和8年9月第3回 木島平村議会定例会 行政事務一般質問通告書

【木島平村議会議員 江田 宏子】

質問事項	質 問 要 旨	答弁者
1. 「小・中学校のあり方」の今後の見通しについて	昨年12月議会で、「少子化の中、小・中学校の今後のあり方をどのように考えるか」と質問した際、教育長からは、「総合教育会議を立ち上げ、これからの教育環境、施設管理の面からも検討をスタートしていきたい」との答弁があった。 また、広報8月号では、「小・中学校のこれからについて『最良の教育環境』を検討し始めました」との記事が掲載されている。 そこで、現在までの検討状況と今後の見通しについて伺う。 ① 3月23日に「総合教育会議」が開催されているが、この会議では、この議題についてどのような協議をされたのか。また、その後の検討状況を伺う。 ② 広報の記事では、「児童生徒数の減少」と「中学校校舎の老朽化」が検討の背景として示されているが、今後、どのような方向・方法で検討を進めていくのか。また、一定の方向性を示す時期やスケジュールについて、現段階で公表できる考えがあれば伺う。 ③ 今後、学校のあり方を見直すにあたり、さまざまな選択肢が考えられるが、現時点で、村として想定している選択肢や方向性はあるか。また、今後の方向性を判断するに当たり、特に重視する点は何か伺う。 ④ 今後、検討を進める中で、大切にしたいことはどのようなことか。 ⑤ 3月に開催された「総合教育会議」の会議録が、現時点では村のウェブサイトには公開されていない。 総合教育会議は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」において、「議事録を作成し、公表するよう努めること」とされているが、3月の会議録を公表する考えはあるか。また、今後開催される総合教育会議の会議録についてはどうか伺う。	村 長 教育長
2. 農産物のブランド化について	本村にとって、農産物の中でも「米」は大きな強みであり、これまで「村長の太鼓判」をブランド米として販売してきた。 一方、米価の変動や高温化など、米を取り巻く環境も変化している。 農業者の高齢化や担い手不足も進む中、今後も農業を持続していくためには、これまでのブランドを維持するだけでなく、「今後の木島平米のブランド戦略」を考えることは喫緊の課題ではないか。また、米以外の農産物のブランド化や、加工等による付加価値の創出なども重要である。 ① 「村長の太鼓判」について、現在の状況をどのように捉えているか。また、今後についてどのように考えているか。 ② 高温化により、コシヒカリ自体の品質維持も課題となっている中、「村長の太鼓判」を含め、今後の「木島平米のブランド戦略」をどの	村 長

令和8年9月第3回 木島平村議会定例会 行政事務一般質問通告書

【木島平村議会議員 江田 宏子】

質問事項	質 問 要 旨	答弁者
3. 外郭団体の「持続可能なあり方」について	ように考えているか。現時点で具体的な検討は進んでいるか。 ③ 米以外の農産物の「ブランド化」や、「加工による付加価値の創出」について、どのように考えているか。 ④ 調布市をはじめ、都市部でのイベント出店などを、「消費者の反応や商品の評価を知る場」として捉え、今後の商品開発やブランド戦略に生かしていく考えはあるか。 ⑤ 今年度から3年間の「木島平ブランド再構築事業」について、外部専門家（アドバイザー）を入れて、ブランド化や高付加価値化をめざすとしているが、現在どのような検討が進められているのか。また、3年間でどのようなブランドの再構築をめざし、具体的な取り組みにつなげていく見込みか。 社会福祉協議会、観光振興局、農業振興公社など、村が関与する外郭団体は、村からの補助金などにより運営されている。年度によっては、補助金の増額や基金の取り崩し、赤字決算となるなど、厳しい運営状況となる場合もある。 例えば、「社協」であれば介護予防や地域福祉、「農業振興公社」であれば耕作放棄地対策、堆肥センター、農機の貸し出しなど、収益にはつながりにくくても、村民生活や村の政策として必要な事業も多々ある。 これらの団体は営利を目的とするものではなく、単純に採算性だけで判断することはできないが、村の財政にも限りがあり、赤字を補助金で補い続けることにも限界がある。 そこで、外郭団体が担う「収益性は低い公共性の高い事業」について、村はどのように位置づけ、今後どのような考え方で支えていくのか、村長の考えを伺う。	村 長